

## アンケート結果にみる授業の成果と課題（平成22年度）

学校教育講座・山田 誠

### 1. 授業の概要

#### (1) 受講者

本授業「学校・家庭・地域社会の連携論」は、教育学研究科学校教育専攻・学校教育専修の共通基礎科目（学校教育と教職のあり方に関する領域）であり、開講学期は1年次前学期である。

今年度の受講者数は、学校教育専攻の学生5名、学校臨床心理専攻の学生1名の、計6名（社会人学生1名を含む）であった。

#### (2) 授業の目的・目標

学校が様々な課題を抱え、また、家庭や地域の教育力の低下が指摘される中、今日、学校、家庭、地域社会の相互の連携・協力のもとに、社会全体の教育力の向上を図ることが求められている。さらに、国民一人ひとりの生涯を通じた学習を支援し、「生涯学習社会」を構築するうえでも、学校、家庭、地域社会の連携・協力を進める必要がある。本授業は、学校・家庭・地域社会の連携の意義及びその理論と実践に関する理解を深め、今後の課題とその解決策を探ることを目的としている。

本授業の到達目標は、次の2項目である。

1) 学校教育・家庭教育・地域社会における教育の各々の特質と現状を理解し、学校・家庭・地域社会の相互の連携・教育の必要性や意義を説明できる。2) 取り上げた問題について分析・考察し、その解決策を探り、その成果を論理的にまとめることができる。

#### (3) 授業の内容と進行過程

本授業では、1) 学校、家庭、地域社会のそれぞれにおける教育の特質や現状に関する理解を深め、2) 学校、家庭、地域社会の連携・協力、あるいは協働の必要性や意義について考察するとともに、3) 学校、家庭、地域社会の課題とその解決策について、1)、2)を踏まえ、「連携」を鍵として、具体例を取り上げながら検討した。

今回はシラバスに基づく説明に代えて、第1回の授業で印刷資料「授業科目の概要」を配布し、本授業のオリエンテーションを行った。第5回までは、フォーマル教育、

ノンフォーマル教育、およびインフォーマル教育という概念を手がかりとして、学校教育・家庭教育・地域社会における教育の各々の特質についての考察を、配布資料や板書を用いた講義を中心に進めた。第5回には、受講者2名ずつの3組を作り、希望に基づいて、フォーマル、ノンフォーマル及びインフォーマル教育それぞれの分担を決め、第6回から第13回前半まで、組ごとに調べと発表を行うかたちを取り入れ、受講者の主体的かつ共同的な学習活動を促すことにした。第13回の後半以降は、国や県内の連携・協力の具体的な取り組みや動向について、資料・ビデオを用いて考察するとともに、人びとの生涯にわたる学習を支援・推進する体制の構築という視点から改めて連携・協力を位置づけ直すことを試みて授業を終了した。

### 2. 授業評価の方法

最終回（第15回）の授業時に、受講者による授業評価アンケート（「授業に関するアンケート」）を実施した。アンケートは、4段階評価形式の質問が7項目と自由記述形式の質問が1項目である。受講者6名全員から回答を得た。

### 3. アンケートの結果

#### 【授業の内容に関する質問】

1-1. [関心・興味] この授業で取り上げられた事柄について、関心・興味がわいた。

4. そう思う：1名（16.7%）

3. まあそう思う：3名（50.0%）

2. あまりそう思わない：2名（33.3%）

1. そう思わない：0名（0%）

#### 【授業担当者の授業方法に関する質問】

2-1. [わかりやすさ] 教員の説明の仕方は分かりやすかった。

4. そう思う：1名（16.7%）

3. まあそう思う：4名（66.7%）

2. あまりそう思わない：1名（16.7%）

1. そう思わない：0名（0%）

2-2. [視聴覚教材等] プリント、黒板、メディア(ビデオ等)の使い方は効果的だった。

4. そう思う：1名 (16.7%)
3. まあそう思う：1名 (64.4%)
2. あまりそう思わない：3名 (50.0%)
1. そう思わない：1名 (16.7%)

【あなた自身に関する質問】

3-1. [あなたの態度] あなたは、この授業に積極的に取り組みましたか。

4. そう思う：1名 (16.7%)
3. まあそう思う：3名 (50.0%)
2. あまりそう思わない：2名 (33.3%)
1. そう思わない：0名 (0%)

【授業全体に関する質問】

4-1. [得るものがあったか] この授業により、考えが培われたり、得るところがありましたか。

4. そう思う：3名 (50.0%)
3. まあそう思う：2名 (33.3%)
2. あまりそう思わない：0名 (0%)
1. そう思わない：1名 (16.7%)

4-2. [目的・目標達成度] この授業の目的・目標は達成された。

4. そう思う：2名 (33.3%)
3. まあそう思う：1名 (16.7%)
2. あまりそう思わない：3名 (50.0%)
1. そう思わない：0名 (0%)

4-3. [満足度] この授業は全体として満足のいくものだった。

4. そう思う：1名 (16.7%)
3. まあそう思う：3名 (50.0%)
2. あまりそう思わない：1名 (16.7%)
1. そう思わない：1名 (16.7%)

【自由記述】

授業で学ぶことができたこと、よかったこと、こう改善するとよいという指摘など、自由に記述してください。

以下に、自由記述からいくつか示す。(なお、記述を一部変更したところがある。)

・連携の基本事項で授業が終わってしまうことは非常に残念でした。

・予備知識がとても身につく、有意義な時間になった。

・先生からの一方的な話ではなく、学生

：先生＝4：6くらいの会話・対話もしてみたかった。

・提示される内容がとぎれとぎれになっていたと思います。

・もう少し実際の現場に結び付けたり、統合的な内容だったら良かったです。

・学生が調べてきたことを発表するという作業やその時のチームが1人ではなく2人だったのが調べやすくよかったと思う。

・学生の発表に注力していたため、先生の論についてあまり学べなかったように思います。

・学校教育のみではなく、社会教育、家庭教育、生涯学習は、人間のパーソナリティ形成においても、重要な役割を担っていると思ひ、長年一人でいろいろと考えることや、また、大学院に入って学びながら、個人と社会全体の結びつきは、年々薄くなっているように思いながら、それらの連携は、生涯必要かつますます重要性を帯びていると感じます。そのような点をふまえて、この授業を履修させて頂き、「生涯教育」が持つ役割や幅、また、学校と地域社会、家庭での教育のあり方や相互の関係性、連携の必要性、今後の課題などを知り、考え、学ぶことができ、今後の活動に活かしていきたいと思いました。

4. 考察と課題

標記のタイトルでの授業は、今回が初めてであった。そして、準備が十分ではなかったと反省する点が多い。本授業としての最終的な着地点、また、後期の授業「保護者・地域連携とネットワーク」との間での位置づけ方等に、なお不明確さがあった。

アンケート結果では、[視聴覚教材等]の使い方について最も評価が低く(「あまりそう思わない」及び「そう思わない」で3分の2)、受講者にとって効果的に活用できていなかったことがわかる。取り上げる教材の選択や使用方法について改善が必要である。また、[目的・目標達成度]については、肯定的評価(「そう思う」及び「まあそう思う」)と否定的評価(「あまりそう思わない」のみ)とが半々であった。[満足度]についても、否定的評価が3分の1を占めており、自由記述の指摘、受講者の経験や関心の多様性等も考慮し、改善方策を検討していきたい。